

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1270200551		
法人名	株式会社 ユタカ		
事業所名	花梨の郷		
所在地	千葉県千葉市花見川区千種町111-1		
自己評価作成日	平成27年8月10日	評価結果市町村受理日	平成27年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成27年9月9日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

住宅地の中にあり、近隣住民と利用者の触れ合いを大切にしながら普通にゆったりと生活しています。認知症状の進行や重度化が目立って来ている為、訪問看護・往診・訪問歯科や精神科専門病院との連携を密にしています。また、生活の中に楽しみを感じていただけるように様々な企画(サロン・レク・外食会等)や季節を感じるイベント等を開催しています。企画には家族様も参加して頂いており、喜ばれております。生活の場面場面で利用者の出来る事を引き出しながら、日々の生活に取り組める様支え、介護度に差はありますが出来る人は出来ない人を助けようとする気持ちが芽生えています。施設内だけで完結する事なく、外出する機会を多くもち社会との繋がりの大切さを開設当初から大事にしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

千葉市郊外の閑静な住宅街にあり、公園や商店街が近く買い物や散歩などに便利な環境に恵まれています。経営理念「1. 家庭的な環境の中で穏やかな暮らし(自分の居場所)2. あなたらしさが発揮出来る暮らし(役割)3. 地域の中で人と人との触れ合いを大切にする暮らし(支え合い)」掲げ、実現に向けて管理者や職員は、笑顔で利用者に寄り添い家庭的で利用者本位の支援に努めています。卒寿などの長寿記念状を贈ったり、誕生日には手作りのケーキでお祝いするなど、利用者にとって過ごしやすい暮らしを提供しています。また地域のひととの関係を大事にし、小学生の体験学習やバザー、ボランテイの受け入れなどが図られ、家族との連携もよく、地域交流も活発に行われています。重度化に対処する為、主治医、訪問看護師などの協力体制が整っており、今年も2名を看取り、家族から感謝されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも見えるように掲示しており、会議やミーティングの場でも常に意識し実践するよう働きかけている。	地域密着型サービスの意義をふまえた3項目からなる理念を、玄関、リビング及び事務所に掲示し、月1回の会議やミーティングの中で確認、共有し、常に意識して実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域主催の行事・ゴミ置き場の掃除・公園のゴミ拾い・小学生の体験学習・運動会・ボランティアの受入れ等々、地域の一員として住民の方々と日常的に交流を持っている。	自治会の行事(掃除やゴミ拾い)に利用者も積極的に参加しています。また小学校との交流会、運動会の観覧、ボランティア(歌、ハーモニカ、二胡、習字など)の受け入れ等、地域との交流が活発に図られ利用者も一緒に楽しんでます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や民生委員と認知症の理解や支援の方法について話し合ったり、情報交換をしている。自宅で介護している方の介護相談や介護用品の無料貸し出しをしている旨伝えている。今後は老人会の方をお招きして気軽に交流が持てる様にしたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では家族・利用者も参加して頂いており、ホームの現状報告や行事内容・災害対策・火災時の協力体制・感染症対策等を議題に活発に意見交換している。今後は老人会の方も招いて交流の機会にしたい。	会議は、年6回地域包括支援センター、自治会長、民生委員、利用者、家族、管理者等が参加し開催しています。議題は豊富で、災害時の対策、食中毒の予防対策、各種行事の参加報告など忌憚のない意見が出され、ホームのサービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者にはその都度、報告・相談をしている。また、グループホーム協会を通じ、実情や困難事例等の報告や情報収集し運営に役立っている。介護相談員も毎月訪問している。生保の利用者を受け入れているので援護課の担当者に相談連絡している。	市の関係課にはその都度相談し、アドバイスを受けています。運営推進会議にも地域包括支援センターからの出席もあり良好な関係を築いています。介護相談員も毎月来ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会により、定期的に研修を開催。意識つけしている。	身体拘束廃止を謳い、委員会を設置して定期的に内部研修を実施し、管理者指導のもと周知徹底を図っています。また外部研修にも積極的に参加し職員も理解に努めています。日中は玄関の施錠はせず、出入り自由になっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に定期的に研修を開催。日常生活の会議でも、事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から要望のある場合は支援させて頂いている。成年後見制度について、勉強会も開いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、ひと項目ずつ丁寧に説明しており、質問にも誠意を持って答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは、連絡ノートを活用したり、面会時や行事の際、または運営推進会議の際に意見や要望を聞き、反映させている。介護相談員も毎月訪問してくれている。	利用者については、介護相談員2名が毎月訪れ、意見・要望を聴いています。家族からは年2回の家族会や行事開催時及び面会時並びに連絡ノートなどを利用して意見要望を聴き運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は個別面談や会議の場を通じ、運営に関する意見や提案を話し合える関係作り力を入れている。	法人の代表者や管理者は、日頃の対話の中や年2回の個人面談、年2回の外食会などを通じて意見や要望をとり入れ運営に反映しています。また職員に身体拘束、虐待・事故防止などの各種委員会の役割を担わせることにより、職員の自主性の尊重と意欲向上に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況を把握し、個別面談時に話し合いの場を設け、職員個々の努力や実績・勤務態度や勤務状況が給与に反映できるよう努めている。また、各種手当もあり、やりがい・向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのケアの実際と力量を把握する為、一緒に現場で仕事をしながら助言したり、ホーム内外の研修で学ぶ機会を確保している。救命救急講習に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しているので、同業者との交流や学ぶ機会がある。お互いの企画参加交流や待機者の紹介等を合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からも聞き取りを行う事によって、不安や心配事等を直接聞く機会を大切にし、少しでも不安が軽減出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人からも聞き取りを行う事によって、不安や心配事等を直接聞く機会を大切にし、入居後は、生活の様子を小まめに写真少しでも不安が軽減出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入の際に本人と家族からの話し合いを通じ、不安や要望を聞かせて頂くことから、何が改善されれば気持ちよく暮らせるのかを見極め、他サービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	重度の利用者でも、体調と相談しながらリビングのソファ等で職員や利用者の暮らしの生活音を聞きながら過ごせるよう配慮している。日常生活を通してお互いに助け合いながら生活出来るよう共同作業も大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にししながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆の大切さを常に考え、共に利用者を支える関係を築けるよう努力している。利用者の状況によっては精神面のサポート役として家族交流をプランに組み込んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にしてきた馴染みの人や家族との絆を重視し、手紙・電話・外出・外泊等も自由に出来るよう支援に努めている。また、お墓参り等個別での外出支援も行っている。昔ながらの友達が遊びに来てくれていつでも自由である。	近所の友人であった人がホームに来訪し、歓談しています。家族の面会はもちろんですが、孫やひ孫が来る時もあり利用者の喜びとなっています。入居前に通っていたスーパーに行く人もいて、馴染みの関係が続くよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や企画を通じ、利用者同士が係わり合い、出来る事出来ない事をお互いに支えあう関係作りが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られ契約が終了した場合は、時折面会に伺ったり、家族からの相談を受け入れたり、施設探し等に協力したりすることもある。退去した家族からベッドの寄付や気軽に立ち寄り交流が続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を共にする中で、会話や個別ケアを通じ希望・意向を汲み取り実現に繋げている。。また、困難な場合には、家族と話し合ったりして本人の意向を汲み取るよう努めている。	花が好きな人の「花の美術館に行きたい」、飛行機が見たい人には「稲毛の飛行機が展示してある所」に行く等、利用者の希望に応じています。言葉が出にくい人には表情で判断したり、一対一になった時に言葉が出やすくなる等で、意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし・生活環境等の情報を申し送りノートを活用して情報共有を図っている。また、家族や前ケアマネと連絡を取り合い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の心身状況に合わせた1日の過ごし方や有する能力の見極め、日々の係わりの中で把握に努め対応している。また、勤務者は業務前に記録を読むことにより、把握して仕事ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、本人の言葉や家族・必要な関係者との話し合いや職員からの情報収集・意見等を参考にして、現状に即した介護計画を作成している。見直しは3ヶ月毎あるいは必要におうじて行っている。	介護計画は、本人や家族の要望を尊重し、必要に応じて医師や看護師、担当職員の意見等を取り入れ、作成しています。見直しは3か月毎に行い、体調変化時などには随時の見直しも行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の様子や会話を記録に残し、気づきや工夫等を申し送りノートに記載する事で小さな情報でも共有し、家族との話し合いやケア・介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や日常生活を通しての係わりの中で発見したニーズ等を共有化して、本人の意向や想いを実現できるよう柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域の方と顔馴染みの関係づくりが出来、安全で豊かな暮らしが楽しめるよう積極的に自治会活動への参加や小学校との交流や買い物は地元のお店を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が選んだかかりつけ医のもとで適切な医療が受けられるよう支援している。また、必要な方に関しては訪問歯科や往診が受けられるよう支援している。	今までのかかりつけ医を希望する人、月2回の訪問診療の医師を希望する人、自由に選んで貰っています。歯科は必要があれば、虫歯の治療、義歯の調整、口腔ケア等のため来訪しています。かかりつけ医の判断で、認知症外来、物忘れ外来、精神科等で受診しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師が週一回訪問した際、近状報告や気づきを報告し、情報共有を図っている。個々の利用者が適切な受診や看護を受け、安心して暮らせるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や入院中の状況把握に努め、早期退院に向け、関係者や家族との情報交換・相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の在り方について契約の際から、ホームで出来る事・出来ない事についての実例をあげながら説明している。利用者の状態に応じて家族・医師・看護師と話し合っ方針を共有し、チームとしての支援に努めている。	契約時に本人や家族と話し合い、「看取りによる指針」の書類を交わしています。医師から終末期宣言を受けた時点で再度話し合い、心肺停止になった時、必要になった時に胃ろうにするか等、細かい事まで話し合い、納得して貰っています。今年度は2人をホームで看取り、家族から感謝されました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や初期対応について委員会を中心に研修を行っている。急変時の初期対応について委員会を通じて講習会を行ったり、消防署主催の救命講習に勉強に行ってもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行う事により、昼夜問わず利用者が安全に避難できる方法を訓練している。また、避難の際には、緊急連絡網により、近隣住民の協力が得られるようになっている。	消防署の立会いを含め年5回(夜間想定を含む)2階の非常口スロープを使用して避難訓練を実地しています。スプリンクラー、消火器等必要な防火設備は整っています。連絡網、緊急対応表も掲示され、7日間の備蓄も確保しています。	高齢者や車いす使用者がいるので、地域の方々の協力体制が必要だと思われます、災害避難訓練を消防署、地域住民と連携し合同で実施する事が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し、感謝・労いの気持ちを忘れないよう心掛け、言葉遣いや自らのケアを振り返り気付けるよう振り返りチェックを活用している。	職員が「振り返りチェック表」で1か月に一度(○×式で)振り返りをし、支援に活かしています。トイレ誘導の声かけは、周りの利用者には気づかれないように配慮しています。また温かい言葉かけ「ありがとう」「助かったわ」等をするように心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちや状態を把握しながら生活を共にしている。日常生活でも個別に話す機会を意識的に設けることで、気持ちや想いが表せるよう働きかけ、自己選択が出来る声掛けをし物事を決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の心身状況に合わせた1日の過ごし方をしている。一人ひとりの生活リズムや習慣を大切にしながら過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつ誰が来てもいいよう服装や身だしなみは気配りしている。起床時や入浴前等、本人と相談しながら着替えを選んで貰えるよう支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事準備や片づけを職員と行う事でそれぞれの力を把握し、負担とならないように、協力し合えるように配慮している。利用者の希望を取り入れた手作り昼食を企画し、食事が楽しみになるよう支援している。	利用者がトレーに「すべりどめシート」を置いたり、盛り付けや配膳を特に無理強いされる事なく、習慣的に行っていました。週2回は、利用者と職員が共に買い物に行き、好みのメニューを決めています。また必要に応じて、刻み、ペースト食、トロミをつけて誤嚥防止に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	症状の進行により食事や水分の拒否やむせ込み等が出て来ている方もいるので、栄養バランスや水分摂取量が確保出来る様好みや促がし方を工夫し、状態や能力に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科から、利用者の状態に合わせた介助方法を学び、口腔衛生保持と利用者の力量に応じたケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常生活動作を利用し、利用者が面倒にならない動線ですぐに行けるようさりげなく声掛けしている。また、排泄表の活用により排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援をしている。	本人の排泄に関する意思確認のできにくい人でも、食前・食後に声かけ誘導をして、なるべくトイレですぐに用を足すように配慮しています。夜間は自分で行く人、職員が声掛けしてトイレで昼間と同じようにする人等、自立にむけた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く入れた味噌汁・おかずや水分補給として野菜ジュースを取り入れたり、個々に応じた対応をしている。少しでも体を動かす機会を作り、主治医とも相談・連携し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度化した利用者は昼間の暖かく人手の多い時間に入浴して貰っているが、自立度の高い利用者は自己選択によりいつでも自由に入浴できる。楽しく入浴して頂けるよう、会話や音楽を流したりと工夫をしている。	約1日おきの入浴支援をしています。入浴好きな人は毎日入っています。2階に機械浴があり1階の利用者が使う場合もあります。たまに入浴剤を入れたり、ゆず湯やしょうぶ湯にし季節感を出したり、音楽を流す等、入浴を楽しむ支援を心がけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣やその時の状態に応じた柔軟なケアを基本に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用・用法・用量・注意点等についてノートに記載・添付し、情報共有している。変化があればその都度主治医に随時報告・相談し、情報を更新している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活を共にする中で、その方の得意な事や興味ある事を発見し、その方が活躍できる場面作りに努めている。また、利用者だけの企画だけでなく、家族・地域を巻き込んだ企画にも力を入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等、お天気のいい日には外出に近所の方も誘っている。自分で歩くことは出来なくても、車椅子で皆と楽しくお喋りしたり、近隣との触れ合いが出来る様心掛けている。近隣の愛犬に会うのを楽しみにしている。	散歩はほぼ毎日、約30分出かけています。買い物は、雑貨や菓子類を購入しています。遠出は、1月は近隣の神社に初もうで、花見は青葉の森へ、秋は鹿島神社に紅葉狩り等、頻繁に出かけています。家族会があり、家族と共に食事に出かけたりして、楽しみの機会を提供しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して対応している。外食会時はお金に依存が無い利用者には支払いをして貰っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者と家族の手紙のやり取りは、季節折々の挨拶や年賀状。絵手紙企画の際の葉書や家族宛の手紙等々支援している。電話も要望があればいつでも対応。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けや写真・作品の展示を利用者と一緒を考えながら行っている。また、トイレ内の照明も利用者の状態に応じて眩しすぎない明るさにしている。夜間は安心してトイレに行ける様に廊下の足元に常夜灯を設置している。	食堂兼リビングは、明るく広くゆったりとしており、掃除も行き届いており、利用者が快適に過ごせるように配慮されています。厨房が一体となっており、調理の匂いや音で生活感があります。壁には季節を感じさせる笑顔の写真などが多数飾られています。室温や換気にも気配りしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり、思い思いに過ごせるように居場所を工夫したり、カウンター前やテラスに談話スペースを設けている。また、1人でゆっくりしたい等、自由に過して頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、馴染みのある使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂き、少しでも居心地良く過ごせる空間となるよう話し合っている。また、居室内からの施錠も出来、安心して過ごしていただけるようになっている。	清潔な居室は、エアコン、クローゼット、洗面化粧台が備え付けです。利用者はテレビ、ダンス、机、ぬいぐるみや家族の写真など馴染みの物を持ち込み、自宅に居るように居心地良く過ごしています。居室の入り口にはお正月に書いた習字(賀正など)が貼られホームの気遣いが感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る方には職員と一緒に調理や片付けを御願している。包丁や鋏、薬品類は鍵の掛かる場所で管理。トイレや自室入り口には、大きな文字での貼紙や表札があり、電気のスイッチも赤く色づけしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200551		
法人名	株式会社 ユタカ		
事業所名	花梨の郷(1階)		
所在地	千葉県花見川区千種町111-1		
自己評価作成日	平成27年8月10日	評価結果市町村受理日	平成27年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成27年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の中にあり、近隣住民と利用者の触れ合いを大切にしながら普通にゆったりと生活しています。認知症状の進行や重度化が目立って来ている為、訪問看護・往診・訪問歯科・精神科専門病院との連携を密にしています。また、生活の中にも楽しみを感じていただけるように様々な企画(サロン・レク・外食会等)や季節を感じるイベント等を開催しています。企画には家族様も参加して頂いており、喜ばれております。生活の場面場面で利用者の出来る事を引き出しながら、日々の生活に取り組める様支援し、介護度に差はありますが出来る人は出来ない人を助けようとする気持ちが見受けられます。施設内だけで完結することなく、外出する機会を多く持ち社会とのつながりを大切さを開設当初から大事にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも見えるように掲示しており、会議やミーティングの場でも常に意識し実践するよう働きかけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域主催の行事・ゴミ置き場の掃除・公園のゴミ拾い・小学生の体験学習・ボランティアの受入れ等々、地域の一員として住民の方々と日常的に交流を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や民生委員と認知症の理解や支援の方法について話し合ったり、情報交換をしている。また、老人会の方や地域住民の方々をお誘いする事で、気軽に立ち寄って頂けるようにしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では家族・利用者も参加して頂いており、ホームの現状報告や行事内容・災害対策・火災時の協力体制・感染症対策等を議題に活発に意見交換している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者にはその都度、報告・相談をしている。また、グループホーム協会を通じ、実情や困難事例等の報告や情報収集し運営に役立てている。介護相談員も毎月訪問している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会により、定期的に研修を開催。意識つけしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に定期的に研修を開催。日常生活の会議でも、事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から要望のある場合は支援させてもらっている。成年後見制度について、勉強会も開いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、ひと項目ずつ丁寧に説明しており、質問にも誠意を持って答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは、連絡ノートを活用したり、面会時や行事の際、または運営推進会議の際に意見や要望を聞き、反映させている。介護相談員も毎月訪問してくれている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は個別面談や会議の場を通じ、運営に関する意見や提案を話し合える関係作りに力を入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況を把握し、個別面談時に話し合いの場を設け、職員個々の努力や実績・勤務態度や勤務状況が給与に反映できるよう努めている。また、各種手当もあり、やりがい・向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのケアの実際と力量を把握する為、一緒に現場で仕事をしながら助言したり、ホーム内外の研修で学ぶ機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しているので、同業者との交流や学ぶ機会がある。お互いの行事参加や待機者の紹介等もしている。今後は、外出企画等も検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からも聞き取りを行う事によって、不安や心配事等を直接聞く機会を大切にし、少しでも不安が軽減出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や困っている事等を直接聞く機会を持ち、今後の方向性や要望を話し合うことで少しでも不安が軽減出来るよう努めている。また、入居後しばらくは、入居者の生活の様子や写真をこまめにメールでお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入の際に本人と家族からの話し合いを通じ、不安や要望を聞かせて頂くことから、何が改善されれば気持ちよく暮らせるのかを見極め、他サービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	重度の利用者でも、体調と相談しながらリビングのソファ等で職員や利用者の暮らしの生活音を聞きながら過ごせるよう配慮している。日常生活を通してお互いに助け合いながら生活出来るよう共同作業も大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆の大切さを常に考え、共に利用者を支える関係を築けるよう努力している。利用者の状況によっては精神的なサポート役として、家族をプランに組み込んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にしてきた馴染みの人や家族との絆を重視し、交流や手紙・電話・外出・外泊等も自由に出来るよう支援に努めている。また、お墓参り等個別での外出支援も行っている。昔ながら友達が会いに来てくれたりと自由にして貰っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や企画を通じ、利用者同士が係わり合い、出来る事出来ない事をお互いに支えあう関係作りが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られ契約が終了した場合は、時折面会に伺ったり、家族からの相談を受け入れたり、施設探し等に協力したりすることもある。また、退去後でも不要になった介護用品等の寄付を頂いたり、気軽に立ち寄ってくれる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を共にする中で、会話や個別ケアを通じての触れ合いの中から想いや希望・意向を汲み取り、希望を実現に努めている。また、困難な場合には、家族と話し合ったりして本人の意向を汲み取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし・生活環境等の情報を申し送りノートを活用して情報共有を図っている。また、家族や前ケアマネと連絡を取り合い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の心身状況に合わせた1日の過ごし方や有する能力の見極め、日々の係わりの中で把握に努め対応している。また、勤務者は業務前に記録を読むことにより、把握して仕事ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、本人の言葉や家族・必要な関係者との話し合いや職員からの情報収集・意見等を参考にして、現状に即した介護計画を作成している。見直しは3ヶ月毎あるいは必要におうじて行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の様子や会話を記録に残し、気づきや工夫等を申し送りノートに記載する事で小さな情報でも共有し、家族との話し合いやケア・介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や日常生活を通しての係わりの中で発見したニーズ等を共有化して、本人の意向や想いを実現できるよう柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域の方と顔馴染みの関係づくりが出来、安全で豊かな暮らしが楽しめるよう積極的に自治会活動への参加や小学校との交流、買い物等も積極的に地元を利用するよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が選んだかかりつけ医のもとで適切な医療が受けられるよう支援している。また、必要な方に関しては訪問歯科や往診が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師が週一回訪問した際、近状報告や気づきを報告し、情報共有を図っている。個々の利用者が適切な受診や看護を受け、安心して暮らせるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や入院中の状況把握に努め、早期退院に向け、関係者や家族との情報交換・相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の在り方について契約の際から、ホームで出来る事・出来ない事についての事例をあげながら説明している。利用者の状態に応じて家族・医師・看護師と話し合っ方針を共有し、チームとしての支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時の初期対応について委員会を中心に研修を行ったり、消防署主催の救命講習会にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行う事により、昼夜問わず利用者が安全に避難できる方法を訓練している。また、避難の際には、緊急連絡網により、近隣住民の協力が得られるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し、感謝・労いの気持ちを忘れないよう心掛け、フレンドリーになりがちな言葉遣いや自らのケアを振り返り気付けるよう振り返りチェックを活用している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちや状態を把握しながら生活を共にしている。日常生活でも個別に話す機会を意識的に設けることで、気持ちや想いが表せるよう働きかけ、自己選択や決定が出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の心身状況に合わせた1日の過ごし方をしている。一人ひとりの生活リズムや習慣を大切にしながら過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつ誰が来てもいいよう服装や身だしなみ(男性のヒゲ)は気配りしている。起床時や入浴前等、本人と相談しながら着替えを選んで貰えるよう支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事準備や片づけを職員と行う事でそれぞれの力を把握し、負担とならないように、協力し合えるように配慮している。利用者の希望を取り入れた手作り昼食を企画し、食事が楽しみになるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	症状の進行により食事やむせ込み等が出て来ている方もいるので、栄養バランスや水分摂取量が確保出来る様好みや促がし方を工夫し、状態や能力に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科から、利用者の状態に合わせた介助方法を学び、口腔衛生保持と利用者の力量に応じたケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常生活動作を利用し、利用者が面倒にならない動線で行けるようさりげなく声掛けしている。また、排泄表の活用により排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く入れた味噌汁・おかずや水分補給として野菜ジュースを取り入れたり、個々に応じた対応をしている。少しでも体を動かす機会を作り、主治医とも相談・連携し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度化した利用者は昼間の暖かく人手の多い時間に入浴して貰っているが、自立度の高い利用者は自己選択によりいつでも自由に入浴できる。楽しく入浴して頂けるよう、会話や音楽を流したりと工夫もしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣やその時の状態に応じた柔軟なケアを基本に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用・用法・用量・注意点等についてノートに記載・添付し、情報共有している。変化があればその都度主治医に随時報告・相談し、情報を更新している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活を共にする中で、その方の得意な事や興味ある事を発見し、その方が活躍できる場面に作りに努めている。また、利用者だけの企画だけではなく、家族・地域を巻き込んだ企画にも力を入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換や体力づくりの為の散歩や買い物等、お天気のいい日には外出にお誘いしている。自分で歩くことは出来なくても、車椅子で皆と楽しくお喋りしたり、近隣との触れ合いが出来る様心掛けている。時には、近隣の方も一緒に外出企画に参加する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、利用者の状況に応じて本人に金銭管理を任せたり、ホームで立替を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者と家族の手紙のやり取りは、季節折々の挨拶や年賀状。絵手紙企画の際の葉書や家族宛の手紙等々支援している。電話も要望があればいつでも対応。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けや写真・作品の展示を利用者と一緒を考えながら行っている。また、トイレ内の照明も利用者の状態に応じて眩しすぎない明るさにしている。夜間はトイレに起きる方が安心出来るように廊下の足元に常夜灯を設置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり、思い思いに過ごせるように居場所を工夫したり、カウンター前やテラスに談話スペースを設けている。また、1人でゆっくりしたい等、自由に過ぎて頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、馴染みのある使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂き、少しでも居心地良く過ごせる空間となるよう話し合っている。また、居室内からの施錠も出来、安心して過ごしていただけるようになっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る方には職員と一緒に調理や片付けを御願している。包丁や鋏、薬品類は鍵の掛かる場所で管理。トイレや自室入り口には、大きな文字での貼紙や表札があり、電気のスイッチも赤く色づけしている。		